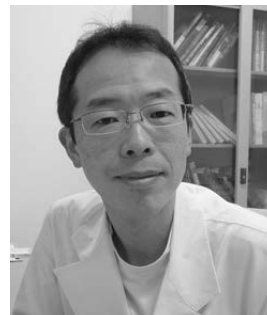


# 病理専門医研修ネットワークプログラム

## 1 はじめに

医療の進歩に伴って病理医の役割はますます重要になっており、病理に期待される能力もより高度で複雑になってきています。当院は多数症例を扱い、複数の病理医が在籍することで、「医師や患者の期待に応えられる、全身臓器の病理診断が行える病理医」の輩出を理念に掲げ研修医教育を行ってまいりました。本プログラムを通じて充実した研修が可能となっています。



プログラムリーダー 聖隷浜松病院病理診断科部長 大月 寛郎

## 2 目的

医師や患者の期待に応えられる、全身臓器の病理診断が行える病理医を目指す。

## 3 目標

病理専門医は病理学の総論的知識と各種疾患に対する病理学的理解のもと、医療における病理診断（剖検、手術標本、生検、細胞診）を的確に行い、臨床医との相互討論を通じて医療の質を担保するとともに患者を正しい治療へと導くことを使命としています。また医療に関連するシステムや法制度を正しく理解し、地域医療を含め社会的医療ニーズに対応できるような環境作りにも貢献し、さらに人体病理学の研鑽および研究活動を通じて医学・医療の発展に寄与するとともに、国民に対して病理学的観点から疾病予防等の啓発活動にも関与することが必要です。本病理専門研修プログラムではこの目標を遂行するために、実際の病理診断、上級医とディスカッション、多数のカンファレンスやセミナーへの参加を通じ、生涯にわたり続けられる学習の基礎を固めることが重要です。病理領域の診断技能のみならず、他職種、特に臨床検査技師や他科医師との連携を重視し、同時に教育者や研究者、あるいは管理者など幅広い進路に対応できる経験と技能を積むことも望まれます。

## 4 特徴

本プログラムでは、聖隷浜松病院病理診断科を基幹型施設とする3年間の研修を行い病理専門医資格の取得を目指します。この期間内に浜松医科大学医学部附属病院、倉敷中央病院、磐田市立総合病院、聖隷横浜病院、聖隷沼津病院からなる専門研修連携施設を必要に応じてローテーションすることで更に多様な症例や病理医不在病院での地域医療を経験できます。当院の症例数は豊富かつ多彩で、剖検数も臨床医の理解を得ることで十分確保されています。指導医も揃っており、カンファレンスの場も多くあり、病理医として成長していくための環境は整っています。本病理専門研修プログラムに是非参加し、知識のみならず技能や態度にも優れたバランス良き病理専門医を目指してください。本プログラムでは、プログラム運営委員会が専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

## 5 研修カリキュラム

### 1. 病理組織診断

3年間を通じて基幹施設である聖隷浜松病院で、病理専門指導医の指導の下病理組織診断の研修を行います。基本的に診断が容易な症例や症例数の多い疾患を1年次に研修し、2年次以降は希少例や難解症例を交えて研修をします。研修中は当該施設病理診断科の業務当番表に組み込まれます。当番には生検診断、手術材料診断、術中迅速診断、手術材料切り出し、剖検などがあります。研修中の指導医は、当番に当たる上級指導医が交代して指導に当たります。各当番の回数は専攻医の習熟度や状況に合わせて調節され、無理なく研修を積むことが可能です。分子生物学的手技に関しては、必要に応じて連携施設での研修を行っていきます。細胞診については、病理診断科内カンファレンスを通じ学んでいただきます。本プログラムでの研修開始時に日本臨床細胞学会に入会していただき、Subspecialty である日本臨床細胞学会認定の細胞診専門医取得も目指します。

また、各施設においては科内カンファレンスや各臨床科と週1回～月1回のカンファレンスが組まれています。担当症例は専攻医が発表・討論することにより、病態と診断過程を深く理解し、診断から治療にいたる計画作成の理論を学ぶことができます。

### 2. 病理解剖症例

病理解剖に関しては、研修開始から最初の5例目までは原則として助手として経験します。以降は習熟状況に合わせますが、基本的に主執刀医として剖検をしていただき、切り出しから診断、CPCでの発表まで一連の研修をしていただきます。当院では月2回解剖例マクロ検討会を開催しており、肉眼所見のとり方や病態の考え方について深く理解することができます。病理解剖に関して、必要に応じて他の連携施設で研修をしていただくことも計画しています。

### 3. 学術活動

病理学会（総会及び中部支部交見会）などの学術集会の開催日は専攻医を当番から外し、積極的な参加を推奨しています。また3年間に最低1回は病理学会（総会又は中部支部交見会）で筆頭演者として発表していただきます。静岡県病理医会（SPS）には1年に1回以上の発表を必須とし、連携施設の医師が多く参加しているため、ここでのディスカッションをプログラム全体のカンファレンスといたします。学会発表に関連した内容に関して、少なくとも1題は国内外の学術雑誌に報告していただきます。これ以外にも国内外のセミナーへの参加も推奨しており、国内外の標準的病理診断方や先進的診断理論、医療安全論、指導理論等を学習する機会があります。また、院外から講師を招き定期的に英会話教室も開催しておりご参加いただけます。

### 4. 自己学習環境

専攻医マニュアル（研修すべき知識・技術・疾患名リスト）p. 9～に記載されている疾患・病態を対象として、聖隷浜松病院に所有している過去の症例の中から専攻医の経験できなかった疾患を学んでいただきます。また、月に一回の論文抄読会を開き、診断に関するトピックスなどの先進情報をスタッフ全員で共有できるようにしていきます。インターネット環境も整っており、文献の検索や電子教材へのアクセスが容易に行えます。

## 6 研修例

### i) 経験できる症例数と疾患内容

本専門研修プログラムでは年間30例以上の剖検数があり、組織診断も15,000件以上あるため、病理専門医受験に必要な症例数は余裕を持って経験することが可能です。

### ii) カンファレンスなどの学習機会

本専門研修プログラムでは、病理診断科内のカンファレンスのみならず、臨床他科とのカンファレンスも多数用意されています。特に当院のCPCは白熱した議論が内外の先生からご好評をいただいています。これらに参加して臨床医との関りをもっていただけるようにしています。また院内に限らず、院外の病理症例検討会や交見会、病理診断講習会などに積極的に出席して、希少例や難解症例にも触れていただけるよう配慮しています。

### iii) 地域医療の経験（病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療など）

当院では、病理医不在病院から依頼された医療機関から依頼された病理診断やテレパソロジーによる迅速診断を積極的におこなってきており、これらを通じて多数の症例の経験を積むことができます。

### iv) 学会などの学術活動

本研修プログラムでは、3年間に最低1回は病理学会（総会及び中部支部交見会）で筆頭演者として発表することを必須とし、静岡県病理医会（SPS）には1年に1回以上の発表を必須としています。その上、発表した内容は極力国内外の医学雑誌に投稿するよう指導します。

本プログラムにおいては聖隷浜松病院を基幹施設とします。連携施設については以下のような特色を有しています。

- ・浜松医科大学医学部付属病院：大学ならではの希少症例を有し、多くの指導医による教育、研究を行っています。研究や先進医療を目指している方に適しており、当院から社会人大学院に入学も可能です。
- ・倉敷中央病院：岡山県倉敷市にある中核病院です。当院と同程度以上の規模や機能を有する病院であることから、将来病理診断を中心とする活躍を考えている方の研修には適しています。
- ・磐田市立総合病院：静岡県中東遠地域における2次医療圏の中核病院であり、複数の常勤病理指導医が在籍しています。分子生物学的手法を積極的に取り入れています。
- ・聖隷横浜病院：横浜市にある中規模病院であり、首都圏での病理診断の経験を積むことができます。病理指導医1名が在籍し指導にあたります。
- ・聖隷沼津病院：常勤の病理専門医不在の地域中規模病院。当院からは病理診断の支援や、テレパソロジー等での迅速診断の支援を行っており、病理医不在病院での地域医療の経験が可能です。

## 7 研修病院群

- ・聖隷浜松病院（専門研修基幹施設）
- ・浜松医科大学医学部付属病院、倉敷中央病院、磐田市立総合病院、聖隷横浜病院、聖隷沼津病院

## 8 研修期間

研修パターン1（病理診断を重視したプログラム）

- 1年目；聖隷浜松病院での研修。剖検（CPC含む）と基本的な病理診断と細胞診、関連法律や医療安全を主な目的とする。分子生物学的検討が必要な症例を担当した場合、手技習得のため浜松医科大学にて1週間以内の研修を行う（以後随時）。
- 2年目；聖隷浜松病院での研修。剖検（CPC含む）とやや専門的な病理診断および基本的な細胞診を主な目的とする。この年次までに剖検講習会受講のこと。死体解剖資格も取得する。
- 3年目；倉敷中央病院、磐田市立総合病院、聖隷横浜病院のうち専攻医が希望する2施設にて6ヶ月間の研修を行う、それ以外は聖隷浜松病院での研修。剖検（CPC含む）と専門的な病理診断および専門的な細胞診を主な目的とする。また聖隷沼津病院にて数日間地域医療研修を行う。この年次までに細胞診講習会、分子病理講習会、医療倫理講習会、医療安全講習会、医療関連感染症講習会など、専門医試験受験資格として必要な講習会を受講のこと。

研修パターン2（研究や先進医療を目指すプログラム）

- 1年目；聖隷浜松病院での研修。剖検（CPC含む）と基本的な病理診断と細胞診、関連法律や医療安全を主な目的とする。浜松医科大学大学院（社会人大学院）に進学し、研究テーマを決定し研究を遂行する。週1日は浜松医科大学にて研修、研究を行う。基幹病院あるいは連携病院での研修は並行して継続する（3年目まで同様）。
- 2年目；聖隷浜松病院での研修。剖検（CPC含む）とやや専門的な病理診断および基本的な細胞診を主な目的とする。この年次までに剖検講習会受講のこと。死体解剖資格も取得する。
- 3年目；1-3ヶ月間浜松医科大学附属病院にて研修、それ以外は聖隷浜松病院での研修。剖検（CPC含む）と専門的な病理診断および専門的な細胞診を主な目的とする。また聖隷沼津病院にて数日間地域医療研修を行う。この年次までに細胞診講習会、分子病理講習会、医療倫理講習会、医療安全講習会、医療関連感染症講習会など、専門医試験受験資格として必要な講習会を受講のこと。